

平成 21 年度全国水生生物調査の結果及び
平成 22 年度の参加者募集について（お知らせ）

（環境省同時発表）

平成 22 年 5 月 31 日（月）
国土交通省河川局河川環境課
直通番号 03-5253-8447
課長 中嶋 章雅（内線 35-401）
課長補佐 空閑 健（内線 35-443）
係長 梁瀬 達也（内線 35-482）

環境省水・大気環境局水環境課
直通番号 03-5521-8314
課長 森北 佳昭（内線 6610）
課長補佐 富坂 隆史（内線 6613）
担当 鈴木 晶（内線 6626）

- 水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また環境問題への関心を高めるため、環境省と国土交通省では、一般市民等の参加を得て全国水生生物調査を実施しています。
- 平成 21 年度の全国水生生物調査は約 7 万 1 千人の参加を得て行われ、夏休み期間を中心として、多くの学校（小中学校等：約 48,000 人）や、市民団体等（市民団体・子供会・観察会等：約 19,000 人）から参加が得られました。
- 全国の調査地点 3,059 地点のうち、全体の 56%の地点でサワガニやカワゲラ等の指標生物の生息が確認され、「きれいな水」と判定されました。
- 本年度も調査への参加を募集しますので、ぜひご参加下さい。

1. 全国水生生物調査とは

河川に生息するサワガニ、カワゲラ等の水生生物の生息状況は、水質汚濁の影響を反映することから、それらの水生生物を指標として水質を判定することができます。このような調査は、一般の人にもわかりやすく、高価な機材等を要しないことから誰でも簡単に参加できるという利点があります。また、調査を通じて身近な自然に接することにより、環境問題への関心を高める良い機会となるため、環境省と国土交通省では、昭和 59 年度から全国水生生物調査を実施しています。

2. 平成 21 年度調査結果の概要

(1) 調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、[1]全国各地に広く分布し、[2]分類が容易で、[3]水質に係る指標性が高い、30 種を指標生物としています。

河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点毎に、I（きれいな水）、II（すこしきたくない水）、III（きたくない水）、IV（大変きたくない水）の 4 階級で水質の状況を判定しています。

(2) 調査結果

○参加者数

平成 21 年度の参加者は 70,623 人（前年度 75,938 人）でした。

	参加者数	参加団体数	調査地点数
合計	70,623人	1,856団体	3,059地点
一級河川※1	15,183人	449団体	567地点
その他の河川※2	55,440人	1,407団体	2,492地点

※1：一級河川大臣管理区間 ※2：一級河川都道府県管理区間及び二級河川等（※1以外の河川）

○水質判定結果

平成 21 年度は、全調査地点の 56%の地点で「きれいな水」と判定されました。前年度（58%）と同様の状況です。

	合計	一級河川	その他の河川
I きれいな水	56%	57%	56%
II 少しきたない水	28%	37%	26%
III きたない水	11%	4%	12%
IV 大変きたない水	3%	1%	3%
判定不能	2%	1%	3%

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがあります。

(参考) 水質階級と指標生物

きれいな水 (I)	少しきたない水(II)	きたない水 (III)	大変きたない水(IV)
カワゲラ	コガタシマトビケラ	ミズカマキリ	セスジユスリカ
ヒラタカゲロウ	オオシマトビケラ	タイコウチ	チョウバエ
ナガレトビケラ	ヒラタドROMシ	ミズムシ	アメリカザリガニ
ヤマトビケラ	ゲンジボタル	イソコツブムシ	サカマキガイ
ヘビトンボ	コオニヤンマ	ニホンドロソコエビ	エラミミズ
ブユ	スジエビ	タニシ	
アミカ	ヤマトシジミ	ヒル	
サワガニ	イシマキガイ		
ウズムシ	カワニナ		

3. 全国水生生物調査に参加を希望される場合のお問い合わせ先

平成 22 年度も市民の方々の参加を得て全国水生生物調査を実施します。調査への参加を希望される方は以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

- 各都道府県の環境部局 (<http://www.env.go.jp/kids/water.html>)
- 各地方整備局等の窓口（一級河川直轄管理区間）
(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/toiawase.html)